

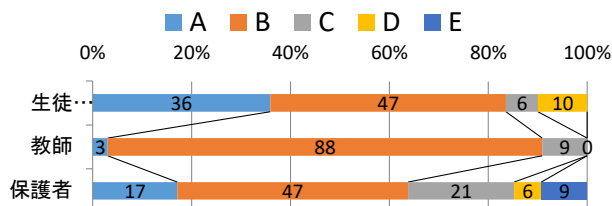
令和 3 年度 日進北中学校 学校診断アンケートの結果①【生徒、教師、保護者】

＜回答数＞ 生徒：398名 教師：33名 保護者：345名

A：よくあてはまる B：どちらかと言えば、あてはまる
C：どちらかと言えば、あてはまらない D：あてはまらない
E：分からない、どちらとも言えない（無回答）

① 進んであいさつをしている。 (%)

	A	B	C	D	E
生徒全体	36	47	6	10	
教師	3	88	9	0	
保護者	17	47	21	6	9

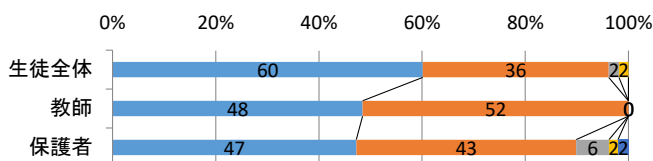


【考察】

あいさつに対する生徒と教師、保護者の意識の差は毎年大きい。生徒や教師のよくあてはまる、どちらかといえばあてはまるの回答率が高いが、保護者の回答率は60%である。マスクの着用、会話をする際には大きな声を出さないなどの新しい学校生活が浸透してきたなかであいさつもできるようになってきた。今後も「あいさつの意義や大切さ」について再確認するとともに、生徒会活動・委員会活動を通して、また、あいさつ運動などを実施することであいさつの励行を進めていきたい。

② 体育祭や文化祭など、行事を楽しんでいる。

	A	B	C	D	E
生徒全体	60	36	2	2	
教師	48	52	0	0	
保護者	47	43	6	2	2

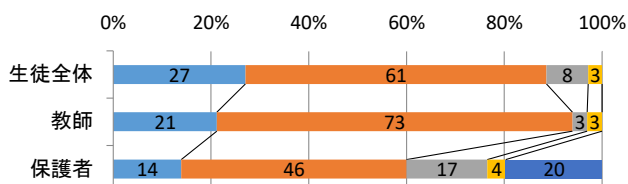


【考察】

今年度もコロナ禍での体育祭、文化祭をはじめ学校行事は感染防止対策を講じながら実施をしてきた。体育祭はリレーなどの競技を中心とした種目を取り入れ、日進北中学校の伝統である「北中の舞」も学年ごとに披露することができた。文化祭は放送設備を整え、密を避けるため有志の発表や合唱を体育館と教室に分かれ鑑賞することができた。行い各学級での鑑賞となり、間近で感じる迫力や感動を感じることができなかった。学年や人数制限をさせてはいただいたが、保護者参観も実施できた。生徒や教師が内容を検討し、アイデアや工夫を凝らして行事を開催し、ABの回答率が高かったことを評価したい。

③ 授業は、学びやすい。

	A	B	C	D	E
生徒全体	27	61	8	3	
教師	21	73	3	3	
保護者	14	46	17	4	20

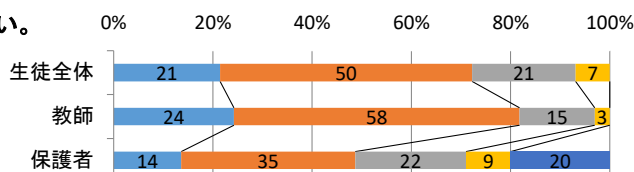


【考察】

感染リスクの高い「生徒が近距離で行う活動」が制限されるなか、感染防止対策に心掛けた話し合い活動やタブレットの有効活用など、授業の形式を試行錯誤しながら進めてきた。生徒・教師のAB回答率が90%近く得られたのは、授業に真摯に取り組んだ成果と考えたい。しかし、「授業が進むのが速く、理解できない」「授業が楽しくない」「授業に集中できない」「説明が分かりにくい」など答えている生徒への配慮は必要である。「主体的、対話的で深い学び」について授業研究を進め、「今日の授業はよく分かった」と教師と生徒、生徒と生徒が関わり合う授業展開の推進を図ってきたい。

④ 授業で分からないことについて、先生に質問しやすい。

	A	B	C	D	E
生徒全体	21	50	21	7	
教師	24	58	15	3	
保護者	14	35	22	9	20

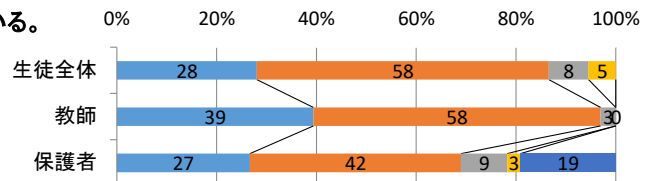


【考察】

3割近い生徒や2割の教師がこの設問にCDの回答をしている。生徒は「先生に聞きにくい」「話すことが苦手」「勇気が出ない」など意識的な抵抗感をもっている。また、「他の生徒が質問している」「質問する機会がない」と場が見いだせないでいる。教員は、質問を受け入れる態勢を整えてはいるが、指導内容が多岐にわたり、物理的にも時間的にも余裕がない状況が完全に解消されていない。忙しい状況ではあるが、日常の授業や学校生活の中でそれぞれの教員が質問を受けられる場の設定ができるよう工夫をしていきたい。

⑤ 学校には、自分の気持ちをわかってくれる先生がいる。

	A	B	C	D	E
生徒全体	28	58	8	5	
教師	39	58	3	0	
保護者	27	42	9	3	19

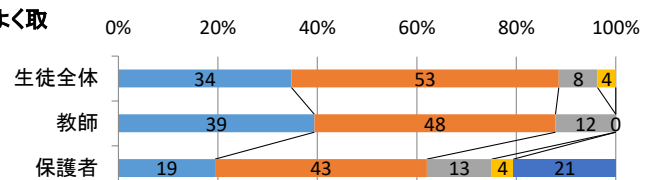


【考察】

毎学期に担任と生徒が一对一で行う教育相談は、生徒指導、生徒理解の重要な柱として取り組んでいる。事前アンケートを実施し、できる限り長期間設定し、生徒と向き合えるよう図っている。しかし、1割を超える生徒がCDの回答を選択している現状をしっかりと受け止める必要がある。「自分の気持ちを話すことはしない」「話しても変わらない」と心を閉ざしている生徒や多感なこの時期の生徒の不安に気づき、いつでも相談できる姿勢をもち、信頼関係を構築していく体制をさらに進めていきたい。

⑥ 先生たちは、自分たちが困っていることについて、よく取り組んでくれる。

	A	B	C	D	E
生徒全体	34	53	8	4	
教師	39	48	12	0	
保護者	19	43	13	4	21

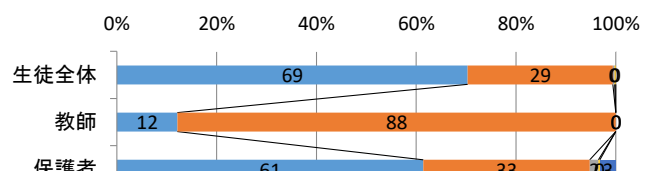


【考察】

9割近い生徒がABの回答をしており、おおむね満足できる回答を得ることができた。今後も、報告・連絡・相談の体制を大切にして、教師一人で問題を抱え込むことなく、学年や学校全体で組織として生徒を見守る力を伸ばしていきたい。教師と保護者のAB回答率に大きな差がある現状が見られる。学校の取組の情報公開を学年通信、各種たより、HP等の活用を通して充実させるとともに、コロナ禍ではあるが、授業参観、学校行事への参加など保護者に来校していただく機会を増やし、保護者の意見、声に耳を傾ける場を大切にしていきたい。開かれた学校を目指し、保護者や地域とのコミュニケーション力の向上を図りたい。

⑦ 学校に仲の良い友達がいる。

	A	B	C	D	E
生徒全体	69	29	0	0	
教師	12	88	0	0	
保護者	61	33	2	0	3



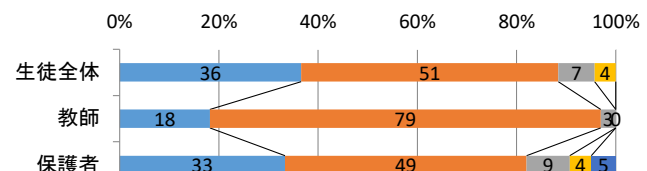
【考察】

ほとんどの生徒・教師と9割を超える保護者がABの回答をしている。生徒や保護者の回答率が高い点は満足できる。しかし、友人関係をうまく築けない生徒や些細な誤解から友人関係にすれ違いが生じる生徒も見られる。SNSでのトラブルも増えている。思春期の多感な生徒にとって、友達存在は大きな影響力をもっている。表面的な友人関係ではなく、真の友人とはどのようなものかを考えさせ構築できる力を身に付けさせるとともに、孤立傾向にある生徒をもれなく把握し、支援していきたい。

⑧ 学校へ行くのが楽しい。

(%)

	A	B	C	D	E
生徒全体	36	51	7	4	
教師	18	79	3	0	
保護者	33	49	9	4	5

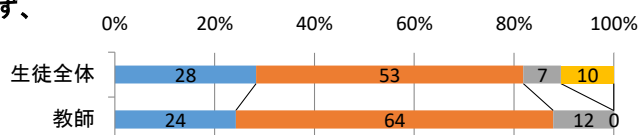


【考察】

生徒のA・B回答率が9割近く示しており、昨年度に比べ割合も伸びており生徒の多くは学校生活を楽しんでいる。感染防止対策を心掛けて過ごす新しい学校生活が始まり約2年が過ぎたが、生徒も教師も、制限のある中でできる方法や工夫を考えて学校生活を送ることができるようになった。しかし、楽しくないと回答している生徒が1割いる。保護者のCD回答率が昨年度と同様の割合である。一人の不安、不満がやがて全体の不安、不満に発展することがある。生徒一人一人の毎日の変化を見逃さず、「子どもが行きたい学校」「保護者が行かせたい学校」を目指して邁進していきたい。

⑨ 委員会や実行委員、有志の活動など、人任せにせず、みんなのためになることを進んでいる。

	A	B	C	D
生徒全体	28	53	7	10
教師	24	64	12	0

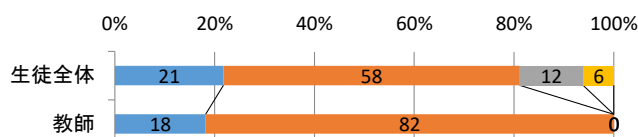


【考察】

感染防止対策を取り入れ実施した生徒会活動、委員会活動や実行委員、有志による活動は、「今できることを考え全力で取り組む、そして楽しむ」姿勢で、生徒の創意工夫が生かされていた。制限が多い中ではあったが、体育祭や文化祭をはじめ、学年行事などでは様々なアイデアを生かして、実施することができた。年末の校内清掃ピカピカ隊では、多くの有志が参加しみんなのためにという意識を感じた。しかし、一部生徒のコメントには、自信がなく消極になっている様子が見受けられる。自尊感情や自己有用感が低い生徒の存在は明らかである。今一歩踏み出せない生徒が「互いに貢献し合う仲間たち」の輪に入れるよう、各種イベント、有志活動を継続していきたい。小さな達成感を積み重ねることで成就感を味わわせたい。

⑩ 自分は学校で認められていると思う。

	A	B	C	D
生徒全体	21	58	12	6
教師	18	82	0	0

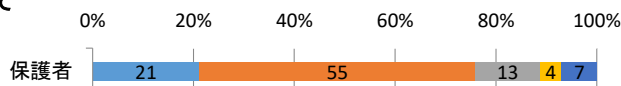


【考察】

8割を超える生徒が自分は認められていると感じている。学年行事などは実行委員会を立ち上げ、生徒会や委員会が協働して生徒を中心として活躍できる場を設定し、活性化を図ってきた。さらに、教師の観察眼の改善と、生徒を認める声掛けの改善があつたのことも考えたい。しかし「取り柄がない、貢献できていない、何もしてまい」と自分を低く評価する生徒も存在している。その評価基準は、教師や保護者、社会が生徒たちに植え付けているといってもよいので、今後も我々の反省材料として忘れてはいけない。どの生徒にもそれぞれの得意分野があり、努力を積み重ねている面が必ずある。登校し教室で笑顔を見せるだけでも場を和ませている。我々教師は、今後も生徒の存在そのものを認め励まし自信をもたせていきたい。一人一人の生徒に目を向け、大切な存在であることを認めて伝え、自己有用感を高めさせるといふ視点を持ち続けていきたい。

⑪保護者
学校は子どもたちの活動の様子を積極的に伝えようとしている。

	A	B	C	D	E
保護者	21	55	13	4	7

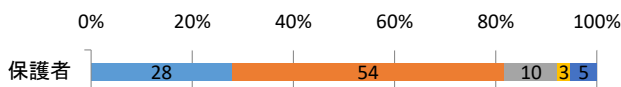


【考察】

AB回答率が8割を切っている。各種たよりやHPによる情報公開に加え、PTA活動の充実や日常の保護者との連絡や会話の充実さらに力を入れていく必要がある。学校行事や授業参観など生徒の学校での様子を見る機会を設定してほしい要望があるが、今年度も感染防止対策のため、学校行事については参観していただく学年や人数に制限を設け、授業参観も一度しか実施することができなかった。地域の方々と交流する機会もほとんど築けていない。保護者の要望に応えられるよう、感染状況を見極め、生徒の学校での活動を見ていただける機会を設定していきたい。今後も事実に基づく積極的な情報公開を進め、学校理解を深めてもらえるように努めていきたい。

⑫保護者
学校が保護者に出す文書(たより、連絡等)やホームページの内容は分かりやすい。

	A	B	C	D	E
保護者	28	54	10	3	5



【考察】

学年通信や学校たよりをはじめとした各種便りの内容が、生徒の様子や学校が伝えたいこと、保護者が知りたいことを的確に表すよう今後も努力を継続する。保護者にとって、行事予定は重要な情報である。正確な情報をできるだけ早くお知らせできるように努めていきたい。HPを学校を知る手段として活用している保護者が増えている。個人情報に配慮しながら、日常の生徒の活動場面(教育活動)を伝えていくために日々更新を進めていきたい。